

〈日・独シンポジウム〉

開催のご案内

● テーマ： 自己 — 精神医学と哲学の観点から

● 参加者：〔パネリスト〕 W.ブランケンブルク(マールブルク大学)

A.クラウス(ハイデルベルク大学)

木村 敏(京都大学)

坂部 恵(東京大学)

〔司 会〕 笠原 嘉(名古屋大学)

● 日 時： 1986年 9月20日(土) 午後2時～午後7時

● 場 所： 河合塾 千種校(名古屋) SDPホール

● 主 催： 河合文化教育研究所

● 後 援： ドイツ連邦共和国総領事館

● 参加料： 2,000 円

● 内 容： I 講 演 (当日会場にて日独対訳パンフレット配布)

「分裂病者における自我構造の変化」 W.ブランケンブルク

「自在・ふるまい・かなしみ」 坂部 恵

「ヒステリーとメランコリーの自己同一性」 A.クラウス

「内省と自己の病理」 木村 敏

II ディスカッション (逐次通訳付き)

司 会 笠原 嘉

パネリスト 木村 敏 W.ブランケンブルク

坂部 恵 A.クラウス

● 申込方法： 下記事務局まで電話またはハガキでお申し込み下さい。

尚、定員(200名)になり次第締切らせていただきますのでお早目にお申し込み下さい。

申込先 河合文化教育研究所 事務局

〔名古屋〕 〒464 名古屋市千種区今池2-1-10 河合塾企画部内 ☎052-735-1635(担当・佐々木)

〔東京〕 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-4 河合塾東京企画部内 ☎ 03-497-5106(担当・石原)

参 加 料 2,000 円

申込方法 下記事務局まで、電話またはハガキでお申し込み下さい。

ハガキでお申し込みの際は、住所・氏名・電話番号・年齢・職業（勤務先、学校名）を明記して下さい。

参加料は、当日受付にてお支払い下さい。

申 込 先 河合文化教育研究所事務局

〔名古屋〕河合塾企画部内（担当・佐々木）

〒464 名古屋市千種区今池2-1-10

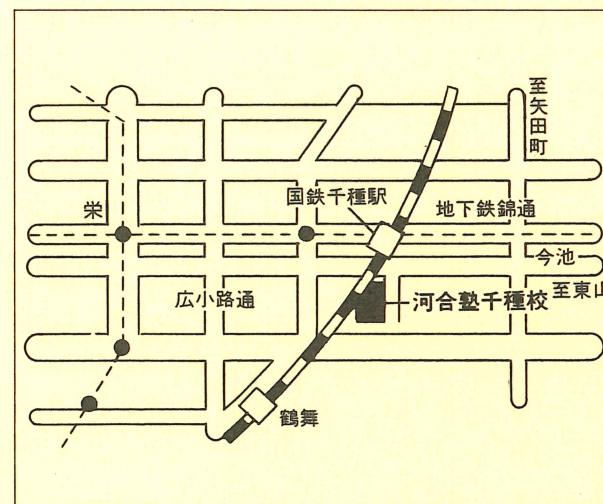
TEL 052-735-1635

〔東 京〕河合塾東京企画部内（担当・石原）

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-4

TEL 03-497-5106

会場案内図



■ 交通案内

国 鉄	中央線千種駅下車
市バス	千種駅前下車
地下鉄	名古屋駅より8分、千種駅下車

〈日独シンポジウム〉

自 己

—— 精神医学と哲学の観点から ——

主 催	河 合 文 化 教 育 研 究 所
後 援	ド イ ツ 連 邦 共 和 国 総 領 事 館

17世紀にデカルトが、深刻な懷疑をかさねた結果到達した《われ思うゆえにわれあり》という結論は、3世紀後のわれわれにとっては、さらに懷疑をつきつめるための出発点でしかないように思われます。《われ》とな何なのか、われわれがものを考えるとき《われ思う》といいうるのはどうしてなのか、《われ》という代名詞で呼びうるような《自己》とか《自我》とか、その《同一性》とかが疑問の余地のない自明なもののように思われるのは、はたして錯覚ではないのか、錯覚だとすれば、この錯覚はわれわれが生きてゆく上でどのような意味をもっているのか、こういった数々の疑問が、特に前世紀末以来の百年間、思想界を大きく動かしてきました。

フッサールからハイデggerへ、そして現代のポスト構造主義思想へと展開してきた現象学の流れも、わが国の西田・田辺の哲学も、結局は《われ》の存在をめぐる思索であったということができます。一方、分裂病その他の精神病が、病気としては脳の変化という形をとりながら、その本質においては複雑な人間関係のなかでの《自己》の保全にかかわる危機的な事態であることも、この百年間にますます明白になってきました。精神病の発病には至らなくとも、現代の若者たちのあいだには《自己》や《自己同一性》をめぐる懷疑に苦しんでいる人が無数にいるはずです。

さらに、日本語と西洋の言語との人称代名詞の用法からもわかるように、《われ》とか《自己》とかの捉えかたには文化による大きな差異があります。その意味で今回、河合文化教育研究所がドイツの精神病理学を代表する二人の学者を招き、日本側からも哲学者と精神病理学者が加わって《自己》に関するシンポジウムをもたれるのは大きな意義のあることだと思われまゝす。精神医学や哲学の関係者だけでなく、広く一般の方々の御参加を期待している次第です。

昭和61年8月

木村 敏

日時 1986年9月20日(土) 午後2時～午後7時

場所 河合塾千種校SDPホール

テーマ 「自己——精神医学と哲学の観点から」

内容

I 講演 (当日会場にて、日独対訳パンフレット配布)
「分裂病における自我構造の変化」

W. ブランケンブルク

「自在・ふるまい・かなしみ」

坂部 恵

「ヒステリーとメランコリーの自己同一性」

A. クラウス

「内省と自己の病理」

木村 敏

II ディスカッション (逐次通訳付)

司会 笠原 嘉

パネリスト

木村 敏 W. ブランケンブルク

坂部 恵 A. クラウス

現今の、いわゆる高度技術社会、管理社会が進行する中、さなぎから成虫に変身するとき柔かく不安定な成長期にある若者にとって、「自分とは何か」といった自己確認の問題は極めて深刻なものになりつつあります。河合文化教育研究所では、現在の若者をとりまく、或いは彼らに内在するこの混迷状況を独自に解明すべく、これまでも幅広い文化、教育活動を行なって参りました。例えば、フランスのラカン派精神分析家ゴディリエール氏や土居健郎氏を中心とした「日本の心、フランスの心」、また国際的デイドロ研究者であるブルスト氏と中川久定氏による「青年の現在」などの国際シンポジウムは、各界より身に余るご評価をいただきました。このたび、こうした問題意識の延長線上で、日独シンポジウムを開催することができますことを大変うれしく思っております。諸先生方の御尽力のお陰でこうした企画を現実のものとする事ができました。これを機にこれからもこの種のテーマを追求していきたいと願っております。

河合文化教育研究所 所長 河合 斌人

〔参加者紹介〕

ヴォルフガング・ブランケンブルク

(Wolfgang・Blankenburg)

1928年西ドイツのプレーメンに生まれる。フライブルク大学・文学部入学。ハイデgger、シラジ、フイंकらについて哲学を、R. ハイスについて心理学を学ぶ。のち医学部に転じ1956年「妄想型分裂病の一例についての現存在分析的研究」を学位論文として提出、学界の注目を浴びた。この論文は現存在分析の古典的業績の一つに数えられている。フライブルク大学、ハイデルベルク大学精神科を経て、現在マールブルク大学教授。主著『自明性の喪失』他論文多数。

アルフレート・クラウス (Alfred・Kraus)

1934年西ドイツのミュールドルフに生まれる。永くハイデルベルクのテレンパッハのもとで人間学的精神病理学を研究し、その分野で現在マールブルクのブランケンブルクと並んで西ドイツを代表する精神科医である。1975年以来師テレンパッハのあとをうけてハイデルベルク大学の臨床精神病理学教室を主宰、現在ハイデルベルク大学教授。主著『躁うつ病と対人行動』他論文多数。

* * * *

木村 敏 (きむら びん)

1931年に生まれる。京都大学医学部卒業。現在同大学医学部教授。精神病理学専攻。主著『自覚の精神病理』『分裂病の現象学』『時間と自己』ほか多数。

坂部 恵 (さかべ めぐみ)

1936年に生まれる。東京大学大学院哲学科修了。現在、同大学文学部助教授。ドイツ・フランス哲学思想史。主著『仮面の解釈学』『理性の不安—カント哲学の生成と構造』『和辻哲郎』ほか多数。

* * * *

笠原 嘉 (かさはら よみし)

1928年に生まれる。京都大学医学部卒業。現在、名古屋大学医学部教授。主著『精神科医のノート』『不安の病理学』ほか多数。



FUJICOLOR 86



FUJICOLOR 86



FUJICOLOR 86



「区すし 台すの 凱ふ」

合文化教育研究所 後援 トイツ連邦共和国総領事館



富士フイルム



FUJICOLOR 86

